

昭和59年1月1日発行

# J.P.C

謹賀新年



No.22

# 新年のごあいさつ

株式会社コマキ楽器 社長小牧正明



新年あけましておめでとうございます。

全国のJPC会員の皆様にはお健やかに新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

JPCも皆様の暖かい御支援のもと年毎に大きく飛躍して参りましたが、特に昨年は「ヴィック・ファース氏クリニック」、「第3回サマーキャンプ」、「浅草サンバカーニバル」、「音大パーカッションアンサンブルの集い」そして12月のフェアと共催の猪俣猛、石川晶、中牟礼貞則トリオ、岩本龍夫、三輪厚太郎等皆様ご存知の各氏によるクリニックや定成庸司、高橋美智子先生による公開レッスン、そしてマリンバアンサンブル等々東京近郊の方々には充分満足頂けた催し物をもつことが出来たと思っておりますが、本年は地方の方がもっと参加出来る様な催しを各地の楽器店のご協力を頂いて開催したいと考えております。

又、本年はジャパンパーカッションセンターの地階も売場として2月よりオープンの予定で名実共に日本一のパーカッションセンターとして内容の充実とJPC会員の皆様への奉仕により一層の努力を致す所存です。  
どうぞよろしくお願ひ致します。

## 新年あけましておめでとうございます



今年も  
素敵な音楽に  
めぐりあえます  
ように！

社員一同

# 「打楽器アンサンブル へのいざない」

その10

塚田 靖

吹奏楽コンクールのシーズンも終り、定期演奏会などやっている学校もあると思いますが、昨年一年間いかがでしたか。みなさんのウデも上達したと思います。さて、このシリーズ、今回でひとつの区切りにしたいと思いますので、いろいろまとめてみました。

## I. 楽器について

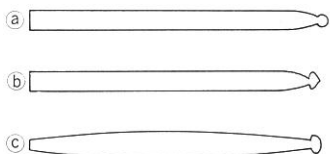
すでにいろいろの楽器が揃っていると思いますが、これから買う時には、常に全体のバランスを考えてください。目先のことだけ考えてその場しのぎで買ってしまうと、打楽器アンサンブルのようにトータルで使う時に音色がバラバラになってしまいます。少なくとも、数年先まで計画をたてておくことが大切です。

## II. スティック類について

楽器の本体が重要であることはいうまでもありませんが、スティック類もとても大切です。せっかく良い楽器を買っても、それを使いこなすことが出来ない場合があります。演奏技術がない場合もありますが、バチに対する無神経さが原因と思われる場合も少なくありません。たとえば、S.D.スティックを例に挙げても、長さはどの位にするのか、形状は①②③（図I参照）のどのタイプにするのか、（音の出方、P～fの作り方などに大変関係がある）ということなど細かく注意する必要があります。

このように、他の楽器のバチに対しても充分研究することが良い音色作り、変化のある表現作りにつながるのです。

(図I) S.D. スティックの形状



## III. 音色について

各楽器の音色についていろいろ研究してみましょう。一般的に使われている奏法の他に、いろいろ異なった方法で音を出してみることも良いでしょう。たとえば、ティンパニは、『バチで打つ』というのが常識ですが、タンバリンのように指で擦ってみるのも面白いのです。また、スーパーボールに太さ2～3mm位の針金を通し、(図II参照)これで擦ってみても面白い音が出ます。(Tam-Tamでも音が出ます)

・というように『音』に対して常に関心を持ち、いろいろな表現法、音色の変化に注意することが大切なのです。



## IV. 各楽器の音量差について

打楽器は、大はバスドラムから、小はトライアングルまで、大きさに大変差があります。従って、同じffでも、出てくる音量には大きな差があります。この他に、人間の耳で感じる音量差もあります。たとえば、スネアドラムのスネアをつけた時の音は、スネアを外した時の音より鋭く人間の耳に聞こえます。ということは、ONの時とOFFの時と同じ強さでたたいても、ONの時の方がずっと強く聞こえるわけです。

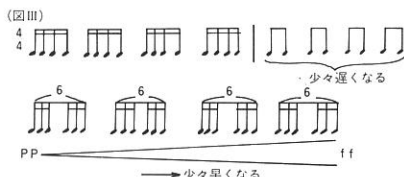
このように、機械的な音量とは別に生理的な音量についても注意することが大切です。いろいろな楽器を使ったアンサンブルの時には、それぞれの楽器の持つ絶対音量差と、人間の耳で感じる生理的音量差ということを考えてください。

## V. 奏者のリズム感について

よく「打楽器を勉強するとリズム感が良くなるでしょう。」と言われますが、必ずしもそんなことはないと思います。また、リズム感が良くなるということは、自分のリズム感の癖を認識するということだと思います。たとえば、私は図IIIのような癖があります。これは、テンポの速さにより異なりますし、楽器の種類によっても異なります。

このように、個人々々が自分の癖を正しく認識することが正しいリズムで演奏できる前提だと思います。従って、5人の奏者がいたら、互いに癖を認識し、それを互いに矯正していくことが大切です。(このことは、「その7」で書きました)

今まで10回にわたり、いろいろ書いてきましたが、少しはお役に立ったでしょうか。音楽の表現に関することを紙面に書くということはなかなか難しく、また、なかなか第三者に伝わりにくいものだと思います。この点まで踏み込めなかったことは残念に思いますが、次の機会にしたいと思います。長い間ありがとうございました。



## 〈新譜紹介〉

### ★JENSON社マーチングメソード

- スネアドラム
  - バスドラム
  - シンバル
  - トリプルトム
  - キーボード
  - 指揮者用
- 定価各1,300円  
(カセットテープ付 各3,000円)  
定価3,000円  
(テープ付5,100円)

武蔵野音楽大学



東京芸術大学



洗足学園大学



# 音大パーカッション

去る10月23日(日)、芝ABCホールで「音大パーカッションアンサンブルの集い」が催された。

出演は桐朋学園大学音楽部、東京音楽大学、尚美高等音楽学院、武蔵野音楽大学、東京芸術大学音楽学部、洗足学園大学音楽学部、国立音楽大学の7校(出演順)。華麗なる饗宴ともいべきこのコンサートは、午後3時に開演、演奏時間約3時間半という長さだったが、時の流れを全く感じさせない白熱したコンサートだった。

トップを切ったのは、メンバー全員が女性という桐朋学園で、外山雄三の「セレナータマリンバーナ」、D.ミヨーの「スカラムーシュ」を、華麗かつ男性に劣らないダイナミックなマリンバンアンサンブルで演奏した。続く東京音楽大学は、マリンバオーケストラによるC.ドビュッシーの「小組曲」、在学中の梯郁夫君作曲の、リズムカルなうえに曲の流れと動きをマッチさせた部分などがある「MZMBA」を演奏。C.マンジョーネの大ヒットナンバー「Feel So Good」をアレンジし、楽しく軽快に演奏した尚美高等音楽学院に続いて、武蔵野音楽大学は、練習時点で困難なことがあったにも関わらず、M.ファラーゴの「Rhythm and Colors」、J.ベックの「Overture

国立音楽大学



## '83パーカッション

### フェスティバル

日本打楽器協会(打楽会改め)主催による第3回パーカッションフェスティバルが、10月8日、こまばエミナースで開催された。今回はマリンバンドOZ、天野宣と和太鼓天野会、明治学院グリーハンドベルクワイア、成蹊小学校楽器クラブ打楽器部を客演として迎え、聴衆を楽しませてくれた。中でも明治学院グリーハンドベルクワイアのハンドベルの美しい響きには、新鮮な感動を覚えた。



# アンサンブルの集い

for Percussion Ensemble」、J.スピアーズの「A Time for Jazz」の3曲を活気溢れる演奏でホール中満たした。東京芸術大学はC.チャベスの「Tambuco」を几帳面に演奏した後、T.ゴーカーの「Gains Borough」で楽しく柔いた雰囲気を作り出し、続く洗足学園大学が、S.ホドキンソンの「Drawing Set No.1」、J.ドットソンの「Rondo Scherzando」、そして水野修孝の「鼓」でステージの上を駆け回るといような動きを見せてくれた。最後は国立音楽大学の6人の奏者と16台のティンパニによる三枝成章の「DKW-37854」で、一貫したリズムのPPから次第に広がってゆくダイナミックレンジ、やがて大音響のうちにフィナーレを迎えるというパワフルな演奏をもってこの日の演奏会を終えた。

コンサート終了後のレセプションでも、皆興奮覚めやらぬ様子で、抽選会ではJPCオリジナル時計が当たって喜ぶ人、ラディックのB.D.(28")が当たって驚くやら嬉しいやらの人、その他楽しい品物が運良く当たった人、運悪く何も当らず残念のみだった人…

この次のコンサートはもっと中味を濃くしようという全員の気持ちをこめて、交された言葉は、「来年もまた！」

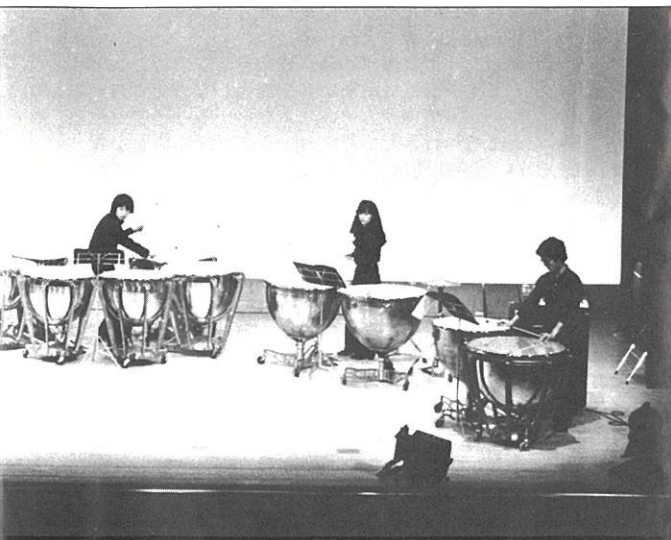
桐朋学園大学



東京音楽大学



尚美高等音楽学院



「音大パーカッション・アンサンブルの集い」コンサートの後に交歓パーティが開かれました。皆さん熱演の後のホッとしたなごやかな気分、でも150名の熱気はさらに過熱、楽しかった！



# ツトムヤマシタ 対談 有賀誠門

## 音楽は芸術の中でも違う世界

ア. 僕、リズムが悪いのは何だろうって言って「意識、へ行ったのが転機になったですね。N響にいた時、音って何だろうなァー…。見えないですね。聞こえる…。ピッピッ…。光？」

ツ. 芸術の中でも音楽は異質ですね。絵画とか文学とかは全て具体的なものばっかですからね。絵にしたって、抽象画にしても、色を使うという、それは具体的なことです。ところが、音の場合、それは一切ない。だからまったく感覚しかない。人間の繊細な感覚しか…。だから、その感覚を知識として学ぶことはできないと思うんですね。

ア. そういうことが今少ないから…。僕、よく言うんです、1つの考えしかできないのを「共通一次的発想」って言うっちゃうんですよ。(笑)音、「あなたの音、それでいいんか？」シンバルなんかガシャーン、ガシャーン。「じゃ、どうやって鳴らすんですか」って言うから、「やってたら何とかなる。自分が欲しい音を探しなさい。」って…。

ツ. 「共通一次的発想」ね…。芸術においては違う世界ですから。ア. ナンセンスですよ…。

今、こんな考え方になってきたのは、さっきの「意識」っていうことに入って、人間の精神とか、肉体とか…。こりゃあ難しいなァっていうところに本があったんですよ。シュタイナーっていう人が書いた「一般人間学」っていう本があって、あれを読んでるうちに「ああ、こんな考え方があるんだなァ。ウン、これが何か似てそうだなァ」と思って、むさぼるように読んでましたよ。

ツ. 解りますよ…。

ア. 影響を与えましたね…。

ツ. シュタイナーっていうのはある時、ものすごく冷めてるところがある。もう、本当に冷めきってるところがある。感覚というものを分析するためにそれがないと分析できない。物理学の人が読んでますよ。

ア. そう思いますね。

ツ. 僕は日本において、音楽家っていうのは殆んどいないですよ。付き合ってる範囲では…。殆んど学者が多いなあ。(笑) やっぱり科学も最終的には感覚みたいですよ。

## 感覚の世界に挑戦して

ア. まさに「ひらめき」ですよ。

ツ. いちばん感覚的なことをやってる人の方が、逆に教養の範囲で終わっちゃう。だから、優秀な人は音楽をやらなくなっちゃう。今のままじゃ…バカバカしいという気になってきちゃう。そうなってくると、文化という面が…文化がなくなっていく。

ア. そうですね。今日本はそっちに走ってますもんね…。自然破壊でしょ…。

ツ. 今、世界的に見てもね。本当にこれから芸術をやる人達が感覚の世界に素晴らしく挑戦していかなければ成長していかない。

ア. おっしゃるとおりですね。特に必要なことですね。で、日本っていう国は西洋と東洋の間にいると思うんです。山下さんが長年むこうにいらして…。

ツ. それは感じますよ。僕もある意味では、日本という国がすごくそれがいえてると思うんですよ。そこのバランスがとれてるからすごいんじゃないかなあと思うんですけどね。すごく興味があるんですよ、逆に。

ア. そうですね。今僕は西洋へ西洋音楽を学びに行こうとは思わないんですよ。外に出たいと全然思わないですね。じゃ日本でいいかっていうとそうじゃない…もっとどっか全く違ったところへ行きたいですね…。どうなんのかなあ…。

ツ. ま、そういう意味では、今かかるとのちやいますか？まあ、音楽っていうのは、絵とか文学よりもすごい違う力を持っていますよね…。だから、そこがものすごく大きいんですよ。で、今は視聴覚の時代になってきているから…。

ア. そうですね。僕の知り合いの先生が、「私は、打楽器を教えるんだ」って言って、結構良い教育してるみたいですね。一般の学校なんですけど、父兄の前でアンサンブルなんか演奏するとびっくりするんですよ。「ハァ…素晴らしい。打楽器っていうのは、こんなものなんですか！」って言われるなんて言ってますけどね。

ツ. ああ、だんだんそうやって…。

ア. ええ、だんだん広がってきてますねエ…。

ツ. ……今度一回芸大にも訪れさせてください。…。

ア. 是非お願いします。お待ちしています。

## 有賀誠門パーカッションメッセージ

1984年1月17日(火)

午後7時開演

石橋メモリアルホール

(上野学園内)

全自由席 ¥2,500

JPC会員…1割引

(ジャパン・パーカッション

センターにてお求めください)

オルガン・ハーブシコードアンリエット・ピュイグ=ロジェ

有賀誠門：新生

Makoto Aruga: "Shinsei" for Timpani Solo

J. ソラー：暗い夜

Josep Soler: "Noche Oscura" for Organ and Percussion

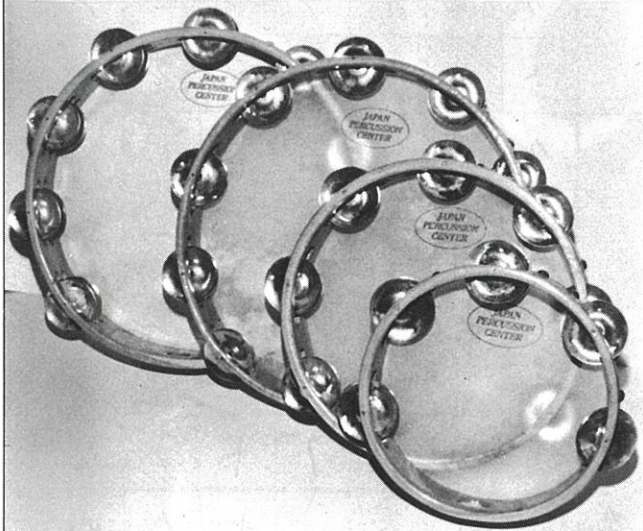
J.P. リュニエール：空間

Jean-Paul Rieunier: "Espace" for Harpsichord and Percussion

I. クセナキス：プレアデス

Iannis Xenakis: "Pleiades" for 6 Percussionists

# 新製品紹介



## プロフェショナルから 絶賛! J.P.C.タンバリン

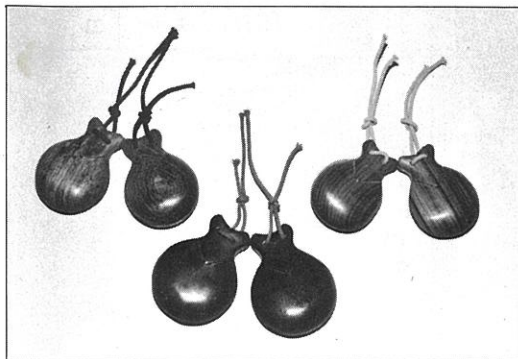
J.P.C.タンバリンはヘッドに良質の牛皮と、フレームには最適の単板材、ジングルにはバランスのとれた高品質材を使用しています。これらの構造により、奏者の微妙なタッチを素直に伝え、最高の響きと美しい音色を得ることができ、幅広い演奏が可能です。

- 6号 5ジングル ¥ 5,500
- 7号 6 // ¥ 6,000
- 8号 7 // ¥ 7,000
- 10号 9 // ¥ 8,000
- 10号 18ダブルジングル ¥ 10,000



### ＜有賀誠門氏＞

あなたはJ.P.C.タンバリンで今までにない音楽を味わうことができる。単純にして最高の響鳴体なのであなたの気持を素直に伝えてくれ、さらにタンバリンが踊りに誘ってくれる。これでオーケストラ、バンドの響きも明るくなること受合ひ。私はJ.P.C.タンバリンに惚れた。



### スパニッシュ・

#### カスタネット

- A : ¥ 10,000 (材質=バリサンドル)
  - B : ¥ 20,000 (材質=グレナディオ)
  - C : ¥ 15,000 (材質=ブラジリアンローズ)
- (写真左よりA.B.C.)

### J P C・コマキ楽器営業時間案内

	J P C	コマキ楽器
1月1日	休ませて頂きます	休ませて頂きます
2日	//	//
3日	12:00~18:00	12:00~18:00
4日	//	//
5日	//	//
6日	休ませて頂きます	休ませて頂きます
7日	//	//
8日以降	平常10:00~	平常10:00~
2月1日	休ませて頂きます	休ませて頂きます
2日	//	//
3月23日	//	//

# 年に一度の コマキの決算 バーゲンセール

ギター、アンプ、スネア、ドラム、シンバル、キーボード、管楽器から打楽器、小物まで絶対に平手に入らない価格で特別提供。

今回は特設会場も含めて左記3会場がバーゲン会場になります。しかも全て10回~24回クレジット付。

(中古ピアノ、中古エレクトーンの目玉商品が沢山あるよ!)

- コマキ楽器
- ジャパン・パーカッション・センター
- J・P・C地下売場

1/14(土)→1/31(火)

10:00~7:00

# お年玉!

しりとり

## ビックプレゼント Q クイズ

### ★解き方★

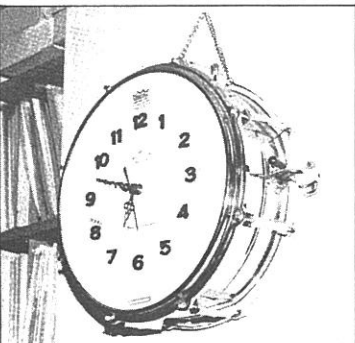
あいているマス目に矢印の方向にしたがってしりとりをしながら解いて下さい。できたら斜線のマス目の7文字を組み合わせてある楽器の名前になります。それを答えとして書いて下さい。

#### 〈応募のきまり〉

官製ハガキにお答え、氏名、年令、住所、電話番号JPCNo.を明記の上、〒111台東区西浅草1-7-1武蔵ビル2F「JPCお年玉クイズ」係宛、お送り下さい。尚、お答えの下にJPCに対しての御意見、御希望等、お書き添え下さい。

#### 〈しめきりと当選者発表〉

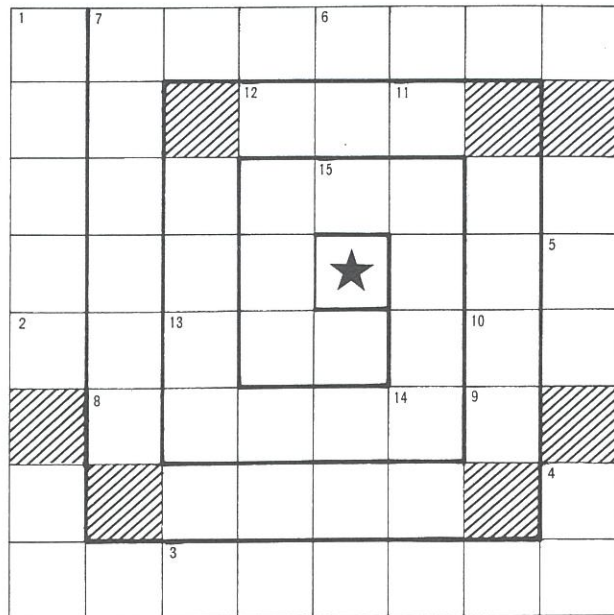
- しめきり=昭和59年2月15日(水)当日必着
- 次号会報に正解○○○○及び当選者を発表致します。当選多数の時は抽選にて当選者を決定させていただきます。



〈特別賞のスネアドラム時計〉

#### 賞品 〈特別賞〉

- デムッサ社、スネアドラム時計 (1名)
- 〈ソナー賞1〉 オリジナルバッグ (5名)
- 〈ソナー賞2〉 オリジナルTシャツ (5名)
- 〈1等賞〉 JPCタンバリン(10インチ) (3名)
- 〈2等賞〉 JPCマレットケース (5名)
- 〈3等賞〉 JPCトライアングルピーターセット (5名)
- 〈4等賞〉 パーカッションネックレス (10名)
- 〈JPC賞〉 JPCオリジナルクリップ (30名)



(例) 

1	タ	イ	2	コ	マ
---	---	---	---	---	---

#### 〈ヒント〉

- ①あるゴングの名称
- ②B.D.をフランス語でいう?
- ③サンバに欠かせない笛
- ④これもサンバには欠かせない B.D.の役目を果たす
- ⑤"シンコペイテッド・クロック"の曲に使われている木製の小物楽器
- ⑥またまたサンバで活躍するひょうきんな音の楽器"ライオンズ・ロア"ともいう
- ⑦フラメンコでおなじみ、幼稚園から皆お世話になっているはず
- ⑧直訳すると"話す太鼓"
- ⑨競走馬は、これをお尻に当てられて走る
- ⑩形は、小さいオルガンのようだが、音はグロッケンみたい
- ⑪インドの代表的打楽器で2個で1組の片方
- ⑫歯車がついていて、ガラガラと音がする。"おもちゃのシンフォニー"でも使われている
- ⑬キント、コンガ、□□□□□
- ⑭②、今度はJapaneaseで
- ⑮!!これも楽器?やしの実ではありません

## 編集後記

明けましておめでとうございます!  
 昨年は、皆さんにとってどんな年だったのでしょうか。ものすごくHappyだった人、今いちUnluckyだった人。私としては、冷静になって考えてみればやっぱり平凡な一年だったのでしょか。夏以降の思い出は強烈に残ってますネ。サマーキャンプ、浅草サンバ、数々の演奏会。演奏会といえ、私事ですが、11月に来日したゲヴァントハウス管弦楽団の演奏には感激しました。数日間幸せな気分であることができました。ありきたり、に思えなかつたんですネ。そういえば、ツトム・ヤマシタのコンサートもシヨッキングです。頭のどこかをガンと一発やられたような。今年も良い意味でのカルチャーショックが欲しいですね。今年、ネズミ年、十二支のトップバッターに戻ってきたわけですね。12年の始まりだから、12年分の抱負など述べてみたらどうですか?なんて、ちよつと無理ですよネ。とにかく、良い音楽を求めて。ネズミ、ネズミといったって色々あります、セカセカせずに、現代の人気者、ミッキーマン君のように明るく陽気にいっちゃおっと。(M)

昭和59年1月1日発行

発行所 J.P.C.事務局

〒110 東京都台東区西浅草1-7-1

(武蔵ビル2F)

電話 〇三七八四五三〇四一(代)

郵便振替口座 東京九一五三二一五

加入者名 (株)コマキ楽器